



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第53巻第
6号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第53巻第6号). 泌尿器科紀要 2007, 53(6): 448-448

ISSUE DATE:

2007-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/71409>

RIGHT:

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、英文は6,825円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 著作権：当誌に掲載する著作物の複写、複製、転載、翻訳、データベースへのとりこみ及び送信等の権利は、泌尿器科紀要刊行会に帰属するものとする。
9. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

現役大臣の自殺という衝撃的なニュースが日本中を駆けめぐった。お金と政治の不透明な関係に関して、あれほど強気な答弁を続けていた大臣にどんな心境の変化があったのだろうか。かけがえのない命を賭けても守る必要があったものは何だったのか。政治家としての個人の名誉なのか。それとも組織や体制の維持なのか。今の日本の政治にいったい何が起きているのだろうか。疑問が次々とわいてくる。この数日、私の近くでも突然の訃報が続いた。和歌山県立医大を退任されたばかりの新家先生のご逝去と、北野病院時代からの友人(47歳)の急逝である。何の前兆も無かっただけに、残されたご家族の心中を察すると何の言葉も無い。

当教室に新しい医師が着任する時、私が必ずお願いすることがある。それは精神的かつ肉体的な健康管理である。もし体調に困ったことがあったら早めに相談してくれるようにも話している。健康管理は自己責任である。いくら素晴らしい研究や立派な業績ができて健康を損ねては何にもならない。勤務医の過重労働がやっと認知されつつあるが、紀要読者の皆さんにも健康管理には十分気をつけていただきたい。

(小川 修)